

AUD / JPY 豪ドル円 月次レポート

前月振り返りと2026年8月の相場展望

発行日

August 4, 2026

対象期間

7月実績 / 8月展望

通貨ペア

AUD / JPY

発行頻度

Monthly

7月末レート（終値）

110.932

▼ -1.39%（7月月間騰落）

7月高値

114.656

7月安値

110.890

RBA金利

4.35%

BOJ金利

1.00%

今月のハイライト

7月は112.50円からスタートし月央に114.66円まで上昇したが、月末にかけて反落し110.93円で引け、月間-1.39%となった

RBAは7月に会合がなく、政策金利は4.35%を維持。次回会合は8月10～11日に予定されている

日銀は7月30～31日に政策金利を1.00%で据え置き。植田総裁は先行きの利上げ路線を維持する考えを示した

月末にかけてドル円で7月31日に日米協調の円買い介入が実施され（財務省が8月3日公表）、その円高がクロス円に波及して豪ドル円も下押しされた

8月 基本シナリオ レンジ

107 - 113円

8/10-11にRBA会合。日銀は次回9月。円相場と商品市況が焦点（確率50%）

豪日政策金利差

3.35pp

RBA4.35% - BOJ1.00%。前月と同水準

始値

112.495

7月1日

高値

114.656

月中最高値

安値

110.890

月中最安値

月間騰落

-1.39%

-1.563円

7月の相場動向

7月の豪ドル円は112.50円でスタートし、月央にかけて114.66円まで上昇する場面があった。もともと月末にかけては110.89円近辺まで反落し、110.93円で引けた。月間-1.39%となった。RBAは7月に会合がなく、新規の手掛かりに乏しかった。

月末の下落は、ドル円主導の円高がクロス円に波及したことに加え、資源国通貨として商品市況の動向が意識されたことが背景にあるとみられる。ドル円では7月31日に日米協調の円買い介入が実施され（財務省が8月3日公表）、これが月末の円高の主因となったとみられる。豪ドルは、中国の景気動向やリスクセンチメントの影響も受けやすい。豪日金利差は3.35ppと引き続き大きい。

主要イベントの影響

AU RBA 7月は会合なし

7月は金融政策会合が開催されず、4.35%を維持

直近では年前半に利上げを重ねた後、影響を見極める局面とされる

次回会合は8月10～11日に予定されている

JP 日銀 7月30～31日 据え置き

政策金利（無担保コール翌日物レートの誘導目標）を1.00%で据え置き、賛成多数（8対1）で決定

高田審議委員は追加利上げを求めて反対。植田総裁は会見に復帰した

植田総裁は物価上振れリスクに言及し、先行きの利上げ路線を維持する考えを示した

7月の総括

7月はRBAの会合がない中、月末にかけての円高が豪ドル円を押し下げた。この円高は、ドル円で7月31日に実施された日米協調の円買い介入（財務省が8月3日公表）が主因とみられる。豪日金利差は3.35ppと大きいものの、商品市況の動向も意識され、月間-1.39%となった。資源国通貨として、中国の景気動向やリスクセンチメントの影響も受けやすい。8月は10～11日にRBA会合が予定されており、その結果が次の手掛かりとなる。

8月の注目ポイント

8月は**10～11日にRBAの会合が予定されている**。据え置きを見込む見方が多いとみられるが、豪州のインフレ次第では判断が注目される。日銀は次回会合が9月で、豪ドル円は円相場・商品市況・中国の景気指標の影響を受けやすいとみられる。円買いが強まる局面ではクロス円全般が下押しされやすい一方、金利差の大きさから下値では押し目買いも入りやすいとみられる。

シナリオ別レンジ予測

 強気	25%	RBAの引き締め観測やリスク選好で豪ドル反発	112 – 116円
 基本	50%	RBA会合と円相場をにらんだレンジ推移	107 – 113円
 弱気	25%	円買いの強まりや商品市況の下落で豪ドル円下落	103 – 109円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
ドル円主導の円高	中	円高	ドル円の下落がクロス円に波及すれば豪ドル円も下押しされやすい
RBAの政策判断（8/10-11）	中	両方向	会合結果次第。利上げなら豪ドル高、慎重姿勢が示されれば豪ドル安に振れやすい
商品市況・原油の下落	中	豪ドル安	資源国通貨として商品安は豪ドルの重し。リスク回避局面では下落が加速しやすい
中国景気の下振れ	中	豪ドル安	最大の貿易相手国である中国の減速は、豪ドルの重しとなりやすい

8月の見通し

基本シナリオは**107～113円のレンジ**（確率50%）とみている。豪日金利差は3.35ppと大きいものの、円買いや商品市況の下落局面では上値が重くなりやすい。8月は**10～11日のRBA会合**が手掛かりとなり、日銀は次回9月。円相場・商品市況・中国の景気指標が主な変動要因となりやすく、下振れリスクにも留意したい。

用語解説

RBA（豪準備銀行）

オーストラリアの中央銀行。7月は会合がなく4.35%を維持。次回会合は8/10-11。

クロス円

米ドルを介さない円と他通貨の交換レートの総称。豪ドル円はドル円と豪ドル米ドルの動きに影響を受けやすい。

政策金利 / 金利差

中央銀行が設定する**基準金利**。RBA4.35%とBOJ1.00%の差は3.35pp。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。6月に1.00%へ利上げ後、7月は据え置き。植田総裁は利上げ路線を維持する考えを示した。次回は9/17-18。

資源国通貨

鉄鉱石や石炭など**資源輸出の比率が高い国の通貨**。豪ドルは商品市況や中国の景気動向の影響を受けやすい。

キャリートレード / 巻き戻し

低金利通貨（円）で高金利通貨を運用し**金利差収益を狙う取引**。リスク回避時の一斉解消は円高要因となりやすい。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報に係る著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。